

新総合計画策定に係る有識者インタビュー報告書

■1 有識者インタビュー実施概要

1 インタビュー実施目的

本インタビューは、新総合計画策定にあたり、市内外の有識者（関係団体）の幅広い観点から、米沢市の魅力、それぞれの分野の実情や課題、まちづくりへのアイデアなどに関する意見・提案をいただき、計画策定の参考資料とするものです。

2 実施概要

(1) 対象者

- ・ 市内関係団体 9 団体（産業・金融 4、教育・地域活動 3、医療・福祉 2）
- ・ 市内出身の首都圏在住者 5 名（米沢有為会会員）

(2) 実施方法・実施日

調査の目的と調査項目を事前に配付した上で、当日は調査項目を参考にインタビュー形式の聞き取り形式で行いました。

第 1 回 平成 26 年 10 月 14 日（火）

第 2 回 平成 26 年 10 月 15 日（水）

第 3 回 平成 26 年 10 月 17 日（金）

第 4 回 平成 26 年 10 月 28 日（火）

3 目次

■1 有識者インタビュー実施概要	1
1 インタビュー実施目的	1
2 実施概要	1
3 目次	1
■2 インタビュー結果の概要	2
1 産業の現状、課題、今後の方向性について	2
1-1 商工業	2
1-2 農業	3
1-3 観光	4
1-4 「食」の活用	5
1-5 その他	5
2 米沢市の魅力づくり、定住環境、人材育成について	6
2-1 現在の魅力、住民気質	6
2-2 魅力づくり、定住環境	6
2-3 人材育成	8
2-4 コミュニティ活動	8
3 市政への意見、まちづくりへの提案	9
3-1 スポーツの現状、今後の方向性	9
3-2 医療・地域福祉の現状、今後の方向性	9
3-3 市政、まちづくりへの提案	10

■2 インタビュー結果の概要

項目毎に頂戴した意見・提案を要約して掲載します。

1 産業の現状、課題、今後の方向性について

1-1 商工業

①米織、繊維産業

1. 繊維産業の多くは企業の下請けである。
2. 繊維産業では価格競争で疲弊する下請けから脱却するため、デザイン、短納期、高品質など付加価値を高める努力が各企業に求められている。
3. 地場産業が残っていることは逆に強みになる。将来的には米沢の繊維産業も先端技術の導入（例えば、吸水率の高いゼオライト（鉱物）の繊維への応用）により、現在の生産量中心から高品質生産に変化していく。その中から人材の受け皿となる企業もでてくると思う。
4. 中小の繊維関連企業は資金繰りが最も心配。市から融資等で支援してほしい。
5. 米織は、袴で日本一の商品である。伝統産業や復古会（鍛冶、染物などの職人）の継承をしてほしい。
6. 昔は米織で一時代を築き、現代は工業都市である。山形大学工学部、有機 EL 関連企業、中小企業が連携し、最先端の工業都市になっていくべき。歴史のまちから、工業都市へとイメージチェンジを図る。（働き場の確保、定住や移住につながる）
7. 伝統工芸の継承、復活を期待する。
8. 米織を含め、地場産業の活性化が重要であり、それが若者に魅力ある地域づくりにつながる。（都市住民の3割が農山漁村への定住願望を持つという内閣府調査もある）
9. 京都のタクシーは着物で乗車すると料金が10%オフになる。米織を広めるためにできることは多い。

②製造業、中小企業

10. 以前は地元企業全体が「鯛の群れ」のようになり、大企業の大量生産方式の下請けを担っていた。現在は、生産拠点の海外移転に伴い、下請けの仕事がなくなっている。そのため、地元企業は高付加価値化、開発型により、下請けからの脱却が必須となっている。
11. 地元企業が生き残るためには、自ら価格が設定できる「自社ブランド」の開発や新規事業の展開しか道はない。それは企業自身が行うので、市には中小企業ではなかなか手が回りきらない、販路拡大や市場調査（マーケティング）などで支援をお願いしたい。
12. 地元企業の雇用者総数は1万人近い。この人数は誘致企業や農業にも劣っていないし、誘致企業と違い、地元企業は撤退しない。地域経済の面を考えると、誘致企業や他の産業と同様、地元企業支援に力を入れてほしい。また、企業誘致ではなく、地元中小企業の集積工業団地のような仕組みを検討してほしい。
13. 八幡原団地に自動車産業の誘致を図る。
14. 八幡原工業団地の企業は大企業の下請けであり、付加価値額が低い。企業自体が大企

- 業の生産調整機能であり、(大企業の業績に左右されて)雇用も不安定になっている。
15. 日本は「ものづくり立国」と言われるが、介護や医療も含めたサービス分野を発展させる取り組みが希薄と感じる。有機 EL が普及した時には生産拠点は海外に移転し、米沢には何も残さないと思う。
 16. 有機 EL の普及は 5 年、10 年では難しい。有機 EL 企業と山大工学部がより一層タイアップすべき。
 17. 山大工学部の研究シーズを事業創出やベンチャーに活かし、事業化に成功している事例もある。
 18. 山形大学と有機 EL に関連した連携を継続する。
 19. 有機 EL の実用化に向けて、事業者の挑戦を支える環境整備、支援策は必要。
 20. ものづくり都市としての発展に向けて、東北有数の工業都市としての地位の強化+観光収入の増加を図る。工業都市の成功例であるレーゲンスブルグ市(独、バイエルン州)は参考になる。
 21. 産学官連携による事業開発。山大工学部の地元貢献を進める。

③雇用、後継者問題

22. 企業の後継者問題が課題である。
23. 将来の企業発展への投資である若者雇用に向けて、事業者の意識改革が必要。
24. 地元の製造業では人手不足が深刻な状態である。大手企業も人手不足なので、人材の取り合いになっている。
25. 地元企業を知らないと就職もできない。
26. 学校を卒業しても、地元自分に合った仕事があるかがポイントである。
27. 正規雇用を増やしたいが、仕事の波があるので経営としてはなかなか難しい。経営が安定すれば雇用も安定する。解雇されてしまうと、地元に住めなくなる。これも人口減少の要因となる。
28. 正規と非正規の雇用格差というが、時給換算でみると派遣社員の方が高いケースも多い。

1-2 農業

①現状、今後の方向性

1. 所得を増やし、農業で食べていける体制にすることが大事。6次産業化への取り組みが課題である。
2. 米沢牛、つや姫(米)、デラウェア(葡萄)など商品はある。製品化して消費者に届ける(売れる)ことが大事であり、食品加工会社などと連携して取り組む。
3. 米沢が3市5町の置賜地域全体をリードして盛り上げていく視点が重要になる。
4. 全国で5~6位に入る米の算出額である。販売戦略を立て、商品の付加価値を高めていくことが重要になる。

②販売戦略(JA)

5. JAオリジナルジュース「山形代表」がヒットしている。カクテルなどにも使われている。アップルハニージンジャーも発売した。ワインで割るなど用途が広い。
6. 自動車販売会社のネットヨタと提携し、新車購入時の農産物プレゼントを全国で行っている。

7. 台湾に米とりんご、シンガポールに米（100トン）を輸出している。
8. 海外市場では業務用食材の方が価格変動や消費変動が比較的小さく、期待が持てるため、富裕層より、人口規模の大きい中間層を対象にレストラン事業を展開している。
9. 全農で海外に直営レストランを約10店舗出店し、調理師を含めて本物の「和食」を提供している。世界遺産登録を機に、さらに「和食」の普及に取り組む。
10. 海外にトップ営業を行っている（年30回程度）。バイヤーも常駐している。
11. 「地産地消」を一層進める（物流コストも抑えられる）。市全体で地産地消を広げていくべき。「米沢でしか食べられない」ものがあったても良い。
12. 川西町では地酒しか置かない居酒屋もある。米沢市の「おしょうしな乾杯条例」（正式名称：米沢市地酒による乾杯を推進する条例 平成26年10月1日施行）の効果を期待する。

③後継者問題

13. 果樹、園芸、牛は後継者がいるが、米はいない。団塊世代が主力のため、5年後には大幅に減少する。
14. 国は農地集積を進めているが、少ない農家で農村環境を守れるのか不安がある。米国も欧州も農業が自立していると言われるが、国が8～9割を保障しているのが実態である。自国が飢饉になった場合も食料を輸出するかは疑問。日本は最低でも自給率50～70%を目指す方針を立て、農業を応援していかなければいけない。

1-3 観光

1. 米沢市が率先して置賜地域の市町の垣根を取り払い、観光や物産などで一体的に取り組むべき。
2. 市内の観光資源を結び、滞在型観光にするような「システム化」が必要。冬季観光（例高齢者向けスノースポーツ）の開発。
3. 温泉を活かし、通過型から滞在型観光への転換を図る。
4. 滞在型にするには、市街地から小野川までのルートに立ち寄れる場所があると良い。
5. 沖縄県令であった上杉茂憲の縁で沖縄県にPRし、学生や観光客を呼び込む。
6. 国内の姉妹都市を利用した産業分野の交流を本格化する。
7. 東北中央自動車道の開通のメリットを活かした観光産業の強化。
8. 雪、食をテーマに、アジアを中心とした海外旅行者にPRする。
9. 「天元台」を地域資源として官民一体で応援していく。
10. 米沢城址の観光開発を進めてほしい。
11. 上杉公園の活用。
12. 城下町を活用しきれていない。
13. 歴史が多過ぎて、焦点がぼやけてしまっている。
14. 米沢城址のシンボルがあると良い。（かつては櫓があった）

1-4 「食」の活用

1. 米沢栄養大学による食文化の開発、食産業の育成。
2. 四季折々の食材を楽しめるので、米沢独自の加工食品開発が可能。
3. 豆もやし、あさつき、雪菜の生産振興。市民にも食べてほしい。
4. 米沢ラーメン、米沢牛の全国への PR。生産量を増やして販売促進を図る。
5. ABC、温泉の PR をもっと行う。
6. 女性が好きなフルーツをもっと打ち出して集客につなげる。福島とフルーツ王国で連携することも良い。

1-5 その他

1. 産学官民が連携する環境が必要。
2. 米沢は優秀な人材を輩出している（日銀総裁 3 人など）。しかし、現在は人材が流出してしまう。地元に残る山大工学部の学生も少ない。
3. 都市の活力である税収の成長（都市価値の成長）を図る。税収＋事業収益－負債利子の最大化。
4. 産業振興、定住環境には、産業誘致、地域に適した起業が重要になる。
5. 市の課題となっている耕作放棄地の解消、森林保全などにボランティアを活用する。最近は関心も高いので、市外からのボランティアも集まる。
6. 上杉鷹山の「為せば成る～」を米沢駅で PR するなど、もっと広めていく。
7. 学校教育のカリキュラムで、米沢、置賜、山形の魅力を子ども達に伝えていくべき。川西町にしか生息しない蝶（チョウセンアカシジミ）など。
8. アイガールズ（Ai-Girls）なども活用し、若い人達が積極的に PR していく。

2 米沢市の魅力づくり、定住環境、人財育成について

2-1 現在の魅力、住民気質

1. 歴史のあるまち。自然災害が少ないまち。高齢者の移住に適している。
2. 食べ物が美味しい。
3. 歴史、自然、食材、温泉、広くて安い土地などがある。
4. 10万人都市として施設・設備がかなり遅れていたが、陸上競技場が改修され、人工芝サッカー場が新設された。
5. 住民気質は保守的、素朴（おしん的な土地柄）。
6. 住民気質を見ると、困っていることを表に出さない（言わない）。冷遇された上杉家の気質かもしれない。
7. 勤勉だが、競争心が希薄で、突出した企業がでにくい風土がある。

（市外からの視点）

8. 米沢と言えば、温泉、米沢牛、上杉鷹山の3つ。
9. 自然が近い。自然災害が少ない。雪、食、祭りなどが豊富。
10. 東北有数の工業都市であることが最大の財産（山大工学部、NEC米沢）。
11. 米織から脱・織物を図る。ものづくり都市として進化していく。
12. 浜田広介（童話作家。米沢中学（現 米沢興譲館高）卒）は帰郷時に「大きな部落に来たなあ」と言った。
13. マイナスイメージとしては、活気のなさ、シャッターストリート、公共交通の貧弱さ、PR不足、東北や首都圏からの滞在型観光の魅力不足。

2-2 魅力づくり、定住環境

①方針

1. 地域の魅力づくりは、地元の人が自らの手で創るべきもの。徳島県上勝町（葉っぱビジネス）や岩手県沢内村（乳児死亡率ゼロ）のように。
2. 魅力はつくるものだと考える。
3. 受け継いできたものをどう活かしていくかが課題である。
4. 昔の偉人に頼り過ぎている。自分たちで新しい歴史をつくっていくことが大事である。
5. 対外的なPR不足だと感じる。
6. 様々な人の意見を聞いて、市民全体の関心を高める。
7. 当事者である若者の声を聴いて対策を立てることが大事。
8. 市の「輝くわがまち創生事業」を使い、各地区の将来に活かす。例えば、ダム地下水でわさび田づくりなど。

②まちなかの活性化

9. 空き地の利活用を進め、まちなかを再構築する。
10. 空き家、空き地の利活用とインフラ整備による生活環境の充実。
11. 空き地、空き家、空き店舗対策に、モデル地区を設定するなどして、集約化、コンパクト化を進めることが必要ではないか。文化会館の改修も必要。
12. 高校はやはりまちなかにある方が良い。人とふれあうことが教育である。
13. （長年の課題である）シャッター通りとなっている中心市街地に若者が利用しやすい

場所をつくる。

③図書館の活用

14. 藩政時代の資料の利活用。上杉鷹山の業績を知る場所にする。
15. 遅筆堂文庫（川西町の井上ひさし図書館）との連携。
16. 学校と連携して、小中学生が活用するようにする。（鷹山の業績を知ることができる）
17. 図書館＋文化施設の複合施設にする。
18. 若者は図書館をあまり利用しない。

④雪

19. 雪のために移住はなかなか難しいので、若者が残るまちづくりを進める。
20. 雪が生活を大変にしている。克雪は喫緊の課題であるが、「住めば都」である。
21. 雪があり、四季がはっきりしている、文化と歴史があるので、歩く環境づくりを提案する。旧市街地を雪の街にする。
22. 地方創生に向けて、「雪国」として国にアピールしてほしい。
23. ウィンタースポーツの活性化を図る。
24. 御成山のジャンプ台をサマージャンプもできるように改修、周辺の公園整備も行い、合宿などに活用する。

⑤出身者や市外の人に米沢市の魅力を広めるアイデア

25. 鷹山の言葉「為せば成る～」をもっと PR に活用する。
26. 米沢有為会に市の文化事業（講演会など）を周知し、首都圏からの参加を増やす。
27. 観光資源をトータルで PR し、通過型から滞在型観光への転換、定期バスツアーによる足の確保などの取り組みが必要。
28. 伝国の杜で講演会を受講した後にまちを散策したが、多くの商店が閉まっていた。それでは米沢に再訪したいという気持ちにならない。
29. 市内の旅館にサービス業としての意識が低いと感じる時がある。殿様商売になっている。全般的に商売が下手だと感じる。誰かがリーダーシップを発揮し、こうした意識を変革する必要性を感じる。
30. 米沢に所縁のある有形無形の資源を演劇などの題材にして PR する。（人々が楽しめ、かつ、米沢への関心が高まる。故井上ひさしのこまつ座長は有為会員）

⑥その他

31. 学園都市として発展するためには、学生が楽しむ生活環境は重要。
32. 所得・婚姻率・出生率には相関関係が認められる。
33. 他市を圧倒する子育て支援策を実施する。
34. 子育て環境の充実が必要。定住のために、少ない負担で住める環境を提供する（家、車、土地など）
35. 元気な中小企業を育成し、雇用を創出すること。
36. 賑わいと働く場の創出が必要。
37. 斜平山（笹野山）を中心とした健康づくりコースがあると良い。（飯豊町にある）
38. 神輿、上杉まつりの活性化。
39. 中央自動車道と国道を結ぶ道路整備を進め、環状線を完成させる。

2-3 人材育成

①学校教育

1. 現代は「親子がくっついていない社会」になりつつある。
2. 国の制度が小さい頃から子どもが親と離されるシステムになっている。
3. 郷土愛を身につけるには小さい頃に感性を養うこと、地元での人同士の関係、特に家族が大事になる。家庭が子ども達の安らぎの場でなければ、社会は安らぎの場にならないと考えている。
4. 学校のふるさと教育は偉人教育になっている。身近な大人、大人のすごさを実感できる体験、置賜地域の風土や歴史を伝えることも必要。
5. 最近の子どもは忙しく、地域の事を学ぶ機会が失われている。自分で発見する楽しさを持つ機会がないと感じる。「思い出のある社会」であることが重要になる。
6. 本来、郷土愛は学校教育で育つものではない。しかし、今の子ども達はふるさとのことを知らない。
7. 家庭でまちづくりの話の聞いたりすることが立派な教育、大事なコミュニケーションになる。

②若者

8. 大学生をもっと活用していく。
9. 今の若者は職場中心の生活のため、地域に友人が少ない。地域で若者が集う機会が必要なことから、西部コミュニティセンターでは「若者の集い」を開催している。
10. 今は青年団活動がほとんどないので、活動する場所や組織づくりを進める。人づくりにつながる。
11. 地域の拠点であるコミュニティセンターと消防団、体育協会が連携していく。

③高齢者

12. 「高齢化社会」を強調し過ぎることに違和感がある。定住するか、Uターンするかは個人の選択に委ねるべきだが、高齢者にとって快適でない地域に住みたいと思う人はいない。「この世で最も美しい村」「老後に最も暮らしたい場所」と呼ばれるコッツウォルズ（英）の取り組みなど、世界から老後に快適な地域づくりを学ぶこともできる。
13. 高齢者の雇用の場を創出する。グローバル化ならば通訳など。

2-4 コミュニティ活動

1. 平成26年4月から、地域の団体で「西部コミュニティ推進協議会」を結成した。この組織化により、団体間の連携強化、活動する住民の負担軽減が図られている。
2. 西部コミュニティセンターの取り組みがモデルケースになり、他地区に広がっていくことを期待する。
3. 野球場を活用していきたい。

3 市政への意見、まちづくりへの提案

3-1 スポーツの現状、今後の方向性

①活動、体制

1. 現在、17 地区対抗の競技会（16 種目）を開催している。体育協会で運営の研究を進めながら、競技会を運営していきたい。

②市民スポーツ

2. 元々、スポーツにお金を使わない気質がある。しかし、2020 年東京オリンピック決定によって市民の関心は高まりつつある。これをチャンスに市民参加を増やしていく。
3. 体育協会の活動の一つ目は、健康長寿を目指した市民の健康増進である。市内には 4 つの総合型地域スポーツクラブがあり、その中のアルカディアスポーツクラブが表彰を受けた。これを契機に市民スポーツをさらに普及させたい。
4. 体育協会の活動の二つ目は、アスリート（競技者）の育成である。そのためにスポーツ少年団や県との連携をさらに強化していく。
5. 市内のスキー場にノルディック、アルペン、ジャンプの 3 種ができる施設があれば、大会の企画運営ができる。
6. 体育協会の事業の柱のひとつとして、指導者研修に力を入れていく。

③高齢者の運動

7. スポーツクラブでは、年代に応じたプログラムを実施しているクラブもある。
8. 2 世代世帯は運動も続くようだが、高齢者のみ世帯では運動に参加するまでに至っていない。体育協会が旗振り役となって取り組んでいく。
9. 最近、サンダルなどから歩きやすい靴を履いている高齢者が多くなってきた。
10. 骨折や転倒を予防する手袋や靴の開発なども考えられる。

3-2 医療・地域福祉の現状、今後の方向性

①地域医療

1. 県で「地域医療ビジョン」（H28~）を策定中。2 次医療圏である置賜地域の基幹病院は「置賜総合病院」になる。
2. 市内は 3 病院の輪番制をとっている。ただし、市立病院は平成 30 年度までに建て替えが必要で、建設地が問題となる。
3. 冬季に震度 7 クラスの地震が発生した場合、積雪によって市街地全域が孤立する。（県の災害シミュレーション）

②地域包括ケア

4. 医療と福祉の連携が必要。病院の看取りから在宅での看取りに移行するため、地域包括ケアを進めていく。
5. 置賜地域の病院と診療所間で、予約・CT 画像共有システム（OKI-net）を稼働している。（病診連携）
6. 県内では置賜地域以外に鶴岡市で同様のシステムが稼働している。
7. 平成 25 年度から、市内では在宅医療のため、IT を活用した多職種の連携を進めている。（医師、看護師、ケアマネジャーなどが i-pad で情報共有を行うシステム）

③認知症対策

8. 認知症の発症率は60代で1割、70代で2割、80代で4割、90代で8割となる。発症を遅らせる対策が中心であり、「向こう三軒両隣」=互助・共助=の地域づくりも大切。
9. 市民セミナーでの啓発、早期発見、早期予防に取り組んでいる。
10. 健診受診率は県内最低である。かかりつけ医が多いことも受診率の低さに影響しているかもしれない。(ただ、選挙の投票率も低い地域性はある)
11. 医師不足、看護師不足は否めない。山形大学医学部では地元枠を設定し、地元に残る医師の養成を行っている。看護師の場合は教員不足も大きな要因。
12. 食生活では塩分の摂取過剰である。

④地域福祉

13. 米沢市は、行政→地区員制度→町内会という縦のラインである。地域福祉において、町内活動は重要である。
14. 町内会の自主事業に対し、市の積極的な後押しを期待する。
15. 高齢者世帯の見守りを常に行っている。今後は「近助(きんじょ)」が大事になる。
16. 手上げ方式で災害時要援護者名簿を作成している。

3-3 市政、まちづくりへの提案

①置賜地域の連携

1. 米沢は置賜地域のリーダーである。
2. 置賜地域のリーダーとして、地域全体を見渡していく役割がある。「東京」と言えば千代田区や文京区という単位で見ない。こういう観点から、例えば、市内の上杉神社だけでなく、置賜地域全体での歴史遺産を活かしていく。川西町のPRを米沢市が行っても良い。
3. 中核である米沢市がリーダーとなり、行政同士の連携、首長の連携を進め、お互いに発展をしていく。
4. 米沢は産業、教育、文化、歴史において置賜地域の拠点。就労の場、ショッピングの拠点となっている。自然災害が少なく、安全な地域。
5. 農業、消防、医療など様々な分野で置賜地域内の連携がすでに進んでいる。米沢市単独ではなく、置賜地域全体で活性化していくため、地域内のネットワークをさらに進める。

②雪

6. 一番は「雪対策」。金山町は流雪溝によって雪で困らない。
7. 全国の除雪モデル地区を設定し、融雪や雪が消えるシステムの実験を進める。雪のおかげで病気や害虫を防いでいる面もある。
8. 道路の除雪は問題ないが、高齢者が暮らす住宅周辺の除雪が問題。ボランティアだけでは難しい。
9. 最もよい方法である融雪のための水路はあるが、長年の課題として、水利権の問題で融雪に利用できない。
10. 高齢者は一人で一戸建てを維持できないので、集合住宅などを進める。
11. 幹線道路の車線拡大。

③政策への提案

(上杉鷹山の研究)

12. 首都圏では「上杉」は新潟の印象が強い。米沢では「上杉鷹山」を前面に押し出す。
13. 「上杉鷹山」の業績（現代に置き換えれば、驚くべき政治手腕であった）を定量的に研究する。現代に活用できることも多い。

(その他)

14. 先人を偲ぶだけでは、まちの魅力は高まらない。「今」の課題を解決するのに過去に頼り過ぎてはいけない。
15. 首都圏から2時間弱の立地だが、文化と歴史だけでは今以上の活性化は難しい。
16. 若者が住むまちづくりを進めるために、投資を惜しまないでほしい。
17. 市職員はもっと現場に足を運び、米沢の中小企業の情報を把握してほしい。条例を定めるだけでは物事は動かない。
18. ボランティア活動に対して敬意と感謝を示すべき。
19. 市民が米沢の事を話し合う場が大事である。
20. 退職した市職員の再雇用や婚活を進める。
21. 市民自身が魅力を感じる施策を打ち出してほしい。
22. 首都圏から2時間の立地は優位である（仙台と同程度）。ただし、物流に不安があるため、栗子トンネルが開通後は人口や企業の流出も懸念される。（昔、冬に自動車事故が発生した際、山形から米沢まで8時間かかった）
23. 消費税の滞納が多い。10%になった場合、さらに増える。徴収方法の工夫が必要。
24. 自然、景観を大切にする。
25. （歴史を継承するため）旧町名を残す。
26. 人間の幸福は「衣」「食」「住」「遊」「知」が満たされていること。この視点でまちづくりの現状と課題を見直す。
27. 米沢の人や団体は「縦」と「横」のつながりが薄いと感じる。
28. 「温故知新」の精神が大切。知識と経験から新しいことに挑戦していく。1つのアイデアが世の中を変えていく。
29. 男女共同参画、女性パワーの活用も必要。
30. 道路上の案内板（表示）が少ない。

参考

【インタビュー対象者】

- 1 米沢法人会会長 鈴木陽市氏（株第一ほうせい）
- 2 山形おきたま農業協同組合経営管理委員会会長 木村敏和氏
- 3 九里学園高等学校学校長 九里廣志氏
- 4 米沢市体育協会会長 色摩安紘氏
- 5 米沢市電子機器機械工業振興協議会会長 宮島健二氏（ミュキ精機株）
- 6 米沢信用金庫理事長 加藤秀明氏
- 7 米沢市医師会会長 高橋秀昭氏（博済会高橋胃腸科外科医院）
- 8 米沢市民生委員児童委員連合協議会会長 柳澤齋良氏
- 9 米沢市地区委員会委員長 鈴木恒雄氏
- 10 米沢有為会（理事 加藤国雄氏、事務局長 中川紘一氏ほか全5名）